

年報発刊にあたって

留学生センター年報1号を発刊できましたことをご報告いたします。徳島大学留学生センターは平成14年4月に省令施設として設置され、同年12月には教授3名と助教授2名の教員と留学生課の職員がこれを補佐する体制でスタートし、現在、実質の活動としては約2年半が経過しております。本号は年報といいながら、この2年半の活動記録であります。ただ、この1号は年次計画通りの発行で、今後は毎年発刊される予定のものであります。

設置前の徳島大学の留学生数は地域的な問題もあり少なく、設置基準の留学生数200名に遠く及ばない状態でした。センター設置はいつになるかという状況でしたが、政府の留学生10万人計画などの推進で、前倒しで設置されました。その後、留学生数は順調に伸び、平成17年3月現在229名になっております。

多くの徳島大学教職員は、当時は、いや今も留学生センターの職務は留学生のお世話をするところと理解されているのではないのでしょうか。この年報を読んでいただければ、留学生のお世話をしているだけでなく、日本人学生の海外留学の支援を含め様々な国際交流、連携の活動をしていることを理解していただけるものと考えます。

日本国内の留学生数は10万人を越し、留学生の数より質がいわれるようになり、国際交流の実質のアウトカムが求められるようになっております。しかも、世界の状況は大きく変化し、日本は国際化ということでは逆にアジアの中の孤児になりつつあるといったの過言ではありません。ただ単に、留学生を受け入れ、日本語を学ばせ、日本語で勉強させる時代から、優れた留学生の確保、英語での授業、日本人学生の海外派遣、海外の大学との単位相互認定をはじめとする教育研究協力など徳島大学も本当の意味での国際化をしていかなければなりません。

この4月に徳島大学の国際化ポリシーが制定されます。そして本年中には新蔵地区に地域国際交流プラザが完成し、その中に留学生センターが入ることが決まっております。留学生センターは学生支援業務だけでなく、研究者レベル、大学、地域の国際交流支援、国際貢献など徳島大学の国際的業務の中核的な組織になることが求められております。留学生センターのスタートは遅かったかもしれませんが、今後徳島大学のみならず、徳島県、四国の国際交流、連携の中核にならんことを祈念いたしますとともに、今後ともご支援、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

留学生センター長
市川哲雄